

令和3年度
第109回

牡丹餅会

令和3年10月22日



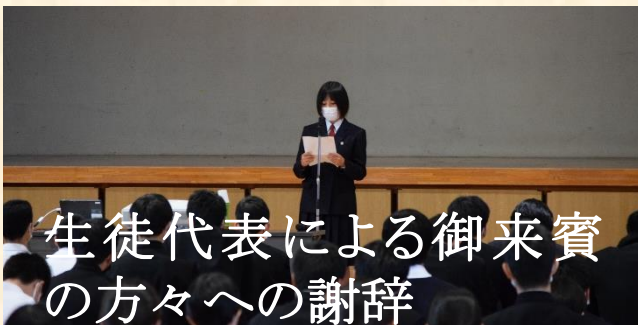
牡丹餅を食べ将来を語り、牡丹餅のように丸く粘り強くなろうと、お互いの健闘を誓い合う行事として今日まで受け継がれています。

記念講演

「さがを誇りに思う教育推進事業」講演

演題 「陸蒸気を海に通せ！」

佐賀城本丸歴史館学芸員 芳野 貴典 氏



今年の牡丹餅会では、佐賀城本丸歴史館学芸員の芳野貴典氏をお招きし、「陸蒸気を海に通せ！」の演題で、日本初の鉄道事業の最高責任者であった大隈重信公と鍋島直彬(なおよし)公の親密な関係や鉄道開通時の秘話などについてご講演いただきました。

教室での様子



〔牡丹餅会について〕

「牡丹餅会」この名前こそ鹿島に学んだ人達の最も懐かしむ言葉でしょう。ある世代までは、学生を信愛された直彬公の慈顔温容とともに、当時の思い出がこの言葉を口にするとたび思い出されるそうです。直彬公は、学校の運営が県に移管されてからも一日として学生のことを念頭より去ったことが無く、常に講堂に臨み、懇篤親切な訓辞をしておられたそうです。この教育に対する情熱が高じて中川の邸宅に、鹿島中学校の教員一同を招待され、酒肴でもてなされた。それが明治36年（1903年）7月のことです。37年6月には中学校の教員と生徒を自宅に招かれ、明治40年8月に中学校四年生・五年生を招かれました。この頃から牡丹餅が供されるようになったようです。